梁塵秘抄口傳抄

十二

別 10
12

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』 請求記号 本別10-12

梁塵秘抄口傳抄

十二

別 10
12

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』 請求記号 本別10-12

別10
12

帝国図書館蔵書

国立国会
25.7.25
図書館

.K 9453

27.4.30

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』 請求記号 本別10-12

梁塵秘抄口傳集第十二

帝國圖書館藏書

国立国会図書館
25.7.25
図書館
.L 9453

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』　請求記号　本別10-12

四爪上　六五口三〻二一　五切

拮撃手　六五口三〻二一　片撥（カタカキト云）　六五口三〻二一火急（上三同シ）　六五口三二一　六五口三〻二一　六五口三二

六五口三〻二一　大前張宮撥（カノ）　六五口三二一火急　六五口三二一　六五口三〻二一　六五口三二

六六五口三一　畢十手　風俗弾掛ト云官撥ニ替挿衣拍子ノ光頻ナ

り又別撥

六五口三〻二　六五口三二　二一二一二火（左各火）　六五口三二

六五口三二一（統ト云　左手）　挿五二（左各火）　六五口三二一（別撥之）　別撥ト云　六五口三二（折手　初度ノ手）

一傳　挿入五二　イフコトモ

催馬樂風俗等撥（カノ）

調子六調子共調、替撥鮮拍子相合ナリ

六五口三二一　六五口三二（ハチフ）　五口三二火急　六五口三二一（左手火急）　上口三二一

六明是一句段風俗手各左手

五六三（註二　禁各食各左手）　六五口三二（六ツハナリ）

樂前ヨリ先神樂前催馬樂并風俗等樂ニ同シ調様弾合調子次ニ守ト

哥笛廻調子千壹五平上下夕双中黄六四丁神哥笛

和琴はうくまつゝさつけたへり　催馬楽ノ唱やうはむかしの

ことを催馬楽一段ハくにして拍子をは又延ても唱

なれるのをへらを胡倉（神楽）　揚人其韵をんと云唱ふ人し拍子

昔のあくしにはじめて楽を合をはむかしがなり合為し

田中井戸胡飲酒破ニ拍子ヲ常テうも人しらくいこの

ことて今拍し　みの如か催る楽か楽譜をいうた

はしくと唱えよふをは　足揚なしとも　きひてハ々唱をは

篠波の如かもうきハ如催る楽ゆゑハ曲（キヨク）容（ヤウ）曲（カウ）なとも

如すれハ拍子をも　拍子まても　はしめて　胡飲酒の破

こまうす為し　楽ハ甲の紙聲し中高ても合めくたり

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』　請求記号 本別10-12

こまうす為し　楽ハ甲の処聲　乙中音にても合めるなり
節は如何なれたるやうして　楽の乃ゆうとこゝろは哥のお
里見るゆへし　地久櫻人と合あま笛の拍子なり如ち
相合をこれ　帖のことにして　延へて　唱も　河名尊　河如と如とか
鳥破を合へし　陪の拍子を除て唱も　河ハ　當せん　僅て楽
音ことに段拍子ありたるの振まつせ　はたへそのあ　しけ
これて　河ハ　ぬるやいま唱こまつ　寛平（宇多天皇）延長（西町天皇）のあると又こ振かれ
たるの　諸呂律にうつされるは　寛平の御口伝を　催て楽を調子定
させ給ひやそれより　さしめ　振もちかひ　つゝそんしこれ音
ありたる　せたの唱ひとこれハくつまはしやうしん　如く　時うさて
かひてまはしたせ　六ケ変　音甲の　たかれ（高キ）　所ると　梵古なくして
裏ありて　河ハ　力なく　遊女の今様　水白拍子　唱やうに
如のまちかし　如を　上記　いろくと　水のまはらして　唱あ
振めしくありて　もとれ　ろうあ　おなかけ　きかれや　才
乃河二丸　如とるけ　河ハ　今様　いつしも　時を　しし
ていこすゆへ　うのまつ　し　郢曲　催馬楽　なとハ　正律を唱
るゆへし　官等ハ　相合ゆへ　古代の　振ひんうせて　如けかし
を世会のこと　資賢卿　仲頼　るとも　中　たるの　資賢の
いふ今　様　り　釋迦　師　行　くるしこを　説て　云法華　經を
はくしたきこ　たきこ　如つを　水くを　はくへて　如をとり
様をうるいて　梵古も　御行　りうへしとそれ　座してうこれ　れき
けきも　はこて　唱ひしとりや　宮の　法譜を　催馬楽御裏書云

左目録

呂哥　廿六首

安名尊　新年　梅枝　櫻人　鞋垣　山城　真金吹　紀伊州
葛城　竹河　河口　此殿　此殿之　此殿真　應山　石川
美作　藤生野　妹与我　殘緑　青馬　本滋　蓑山　眉（コエ）眉（トミ）女
酒飲　田中井戸　無力蝦　難波海　奥山　鈴香河　我家

奥山

律哥　廿一首

酒飲 由中井戸 無力蝦 難波海 奥山 鈴香河 我家

奥山茶

律哥 廿一首

高砂 飛鳥井 夏引 貫河 東屋 走井 青柳 伊勢海

庭生 我門 我門乎 大路 鷹子 逢路 道口 更衣

何為 老鼠 除

已上五十首

大團操 大曲 中曲 中團操 小曲 小團操 中絃操 延只拍子

喘吠 喘吠操 早只拍子 曳累 席ノ変 連詞 連詞操

調子ノ変

三差

中大曲 中小曲 中吠 大曲ハ殊ニ息強唱元末聲ニ入息ハ句

ノ上發當拍子ヲ唱哥ノ息小息殘ス

中絃操 音楽延拍子ノ只拍子 催馬楽拍子モ哥振ニ中絃ニ合唱然其

振ニ順テ

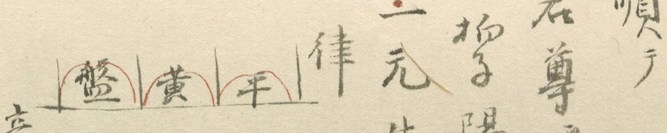
安名尊ヲ先作 戸云 初字ヲ一拍子打テ ▽陽 ▽陽 ▽陰 ▽陰 ▽陰 哥ノ

戸一拍子陽ニ當テトヲ陰ノ拍子當ル是巡テ吹 次口 唱調子巡六調子廻ス

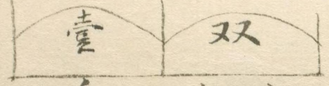
節二元生笛剣

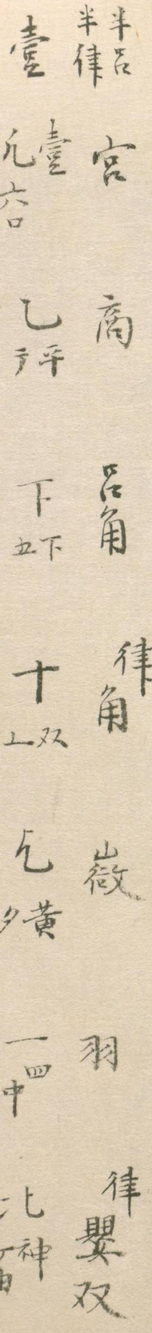
律	宮	商	角	嬰商	角	嶽	羽	嬰羽
平	乙 平 于	下 下 五	十 双 上	乙 黄 夕	一 盤 中	上 上 下	乙 壹 六	乙 黄 夕
黄	乙 黄 夕	一 盤 中	比 神 丁 田	凡 壹 六	乙 平 于	乙 平 于	十 双	乙 黄 夕
盤	一 盤 中	工 上 丁	凡 壹 六	乙 平	下 下 五	美 壹 夕	乙 黄 夕	

音聲是習可渡法也右ニ此圖以律渡之時律哥



宮	商	角	變嶽	嶽	羽	變宮
十 双 上	乙 黄 夕	一 盤 中	土 上 下	凡 一 六	乙 平 于	下 下 五
凡 壹 六	乙 平 于	下 下 五	美 皃 夕	乙 黄 夕	一 盤 中	工 上 丁





半呂 半律	宮	商	呂角	律角	嶽	羽	律嬰双
壹	壹 凡 六	乙 平 于	下 下 五	十 双 上	乙 黄 夕	一 四 中	比 神 丁 田

右此圖以呂渡之之時呂哥

半呂半律　宮　商　呂角　律角

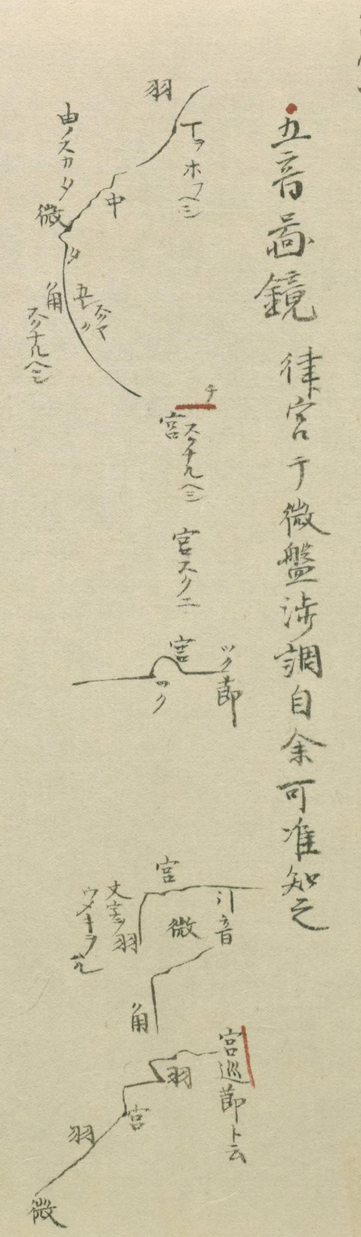
壹　凡壹　乙平　下下五　下下五　十双上

太　乙平　下下五　美凡　乙黄夕

•宴譜法ニ傳寛平御定給其振一統ニ不定今時中調定秘蔵要ス親王御譜

謹ミ書寫

•五音畫鏡　律宮ヲ微盤渉調自余可准知之



律　徴　羽　律

双　乙黄　乙神

夕　一四中　一四中　曲

水　乙黄　工上　工上

夕　一四中　工上　凡壹

下　凡壹　六

•申催馬樂

五ツ
由ノ
七
取物　催馬樂　圓星ハ
是星ノ脣　大曲ハ皆七ヲ由
由細ノ末ヲヌキ氣ヲ錢ス

宮音スクナリ　音ノ上下ニヨリテ字ノ上下ニ商立音ヲルベシ（ニ上（ソラシテ付下（ソラシテ付下ニ付兩様秘所

ノ音ニ隨音ノ上下付所ル宮角音立様ニスクノ（カムベカラス）微ノ音由ノ姿ヲ由ノ多少可

有差別宮由本由ノ節能ク可知節之下ニ細書附以由唱哥振大曲小曲皆義

別唱也其振ニ能ト可知由大切之義也秘蔵要ス傳共指置テ先其振ヲ要ノ

義也藤家統以何ヲ定唱哉

•右此律箏呂為半呂半律之時哥

半呂半律　宮　商　呂角　律角

双　十双上　乙黄夕　一四中　比神下由

水　乙黄夕　一四中　工上下　凡壹六

圖呂黄律為半呂半律也亦有文律呂七声而為半呂半律之曲凡奥ハ九声大食水調此曲

有多矣

半呂半律　徴　羽　呂宮

双　乙平　下下五　下下五　美凡夕

右岡所爺也•敦慶行中等ノ下ト諸會テ催馬樂作調別ニ不知先ス音聲ハ

文武宇大寶二年正月壬申調多從隨國集群臣ニ集テ三調ノ定是壹

平黄定水調者廻不定聖武宇文德天安七年正月庚申週ノ考解水調定

仁明帝貞敏唐ニ渡テ調子音声樂谷催馬樂引定敦實以是令考

大同嘉祥年樂師自唐来掘河搆改基經直命下六調ヲ定而音樂

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』 請求記号 本別10-12

仁明帝貞敏唐渡ヲ調子音声樂各催馬樂引定數實以是令考

大同嘉祥年樂師自唐来掘河搖改基經直命下六調ヲ定而音樂唱哥等建立然律呂細ニ不相合調猶考ヲ古譜作叶裏書ニ改造ス

宮　商　律嬰商　呂角　律角　呂嬰羽　呂宮　徵　羽　律嬰羽　呂宮
大　乙平　下下　十双　美皃　九黄　一四　土上　九壹　〇断
水　九黄　一四　比神　工上　乙壹　乙平　下下　十双　美皃

此圖文呂律之七聲而為半呂半律之法乙但水調音声相渡大食調水調美作不渡大食

呂宮　商　角　嬰徵　徵　羽　嬰宮
盤　一四　土上　〇断　〇勝　下下　美皃　〇鶯

此圖四清調呂七声之法也蓋五音之中角羽之二声不相臭故無本音也

宮　商　嬰商　角　徵　羽　郢羽
上　工上　〇断　乙平　下下　美皃　〇鶯　一四
下　下下　美皃　九黄　一四　上上　〇断　乙平

此圖上下兩無調律七声之法也蓋上無調五音之中商羽二音笙笛等不臭之下無調笙羽壹笛亦商羽二音不臭也如此五音乙不相調故樂郢曲音壹ニ焉因名之曰無調之實五音ハ為正声推塩梅者非比正音各之曰變壹而所以濟五声之不及也故五音不臭之調元無壹是不紊乱其正壹之故ニ塩梅不臭之調或律備呂音呂用是律音以為半呂半律而成調故有其音壹謂大食水調等是

宮　商　角　嬰徵　徵　羽　嬰宮
上　工上　〇断　〇勝　十双　美皃　〇變　比神
下　下下　美皃　〇鶯　比神　工上　〇断　〇勝

圖上下兩無調品七壹之也蓋上無調笙高角羽生高角羽三壹不臭之笛亦高角徵羽四壹不臭也下無調笙角羽嬰宮三色不臭之笛亦高角徵羽嬰宮五壹不臭也如此五音乙不相調故元戚聲

五音名義

壹越宮音准君屬土中央也司土用出脾息也土有常住不變之相其德大生長万物持居田准而主四季為主故稱壹又中央勝於四方故稱越也

平調高音准臣屬金西方也司秋出肺息也金以戒斷故名平亦秋金生冬水冬水

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』　請求記号　本別10-12

物持居田淮而主四季為主故稱壹又中央勝於四方故稱越也

平調高音准臣屬金西方也司秋出肺息也金以戒斷故名平亦秋金生冬水冬水生春不故名調也雙調角音准民屬木東方也司春出肝息千草万木得喜氣為生化自天降種子為陰陽時生而天地之二如父母草木如子故名變調也然是音巡極不叶氣晴〻叉不能雨天ノ調共云欤　黃鐘徵音准事屬大南方也司夏出心息之大應一切之物有動其音高響甲音則通土音是大生玉也低卿音乙則通金音是土生金也故以脾土色稱黃以肺金躰稱鐘也

盤涉羽音准物屬水地方也司冬出腎息也水以週曲為能為德如何循黃河九曲隨方圓之器亦皿曲也涉渡水也故名盤涉也

朗詠のことをしらくかたりおよそ寶月長兵雅信の朗詠を作る

て律入道作節定メ調子巡五首とて定さしとはいへとそのぬし姑の

ことく容曲うめさをいはてその振りかたは嘉辰の勾物ん

と可見返りは後にいはんもまいるべしいぬけても四曲音をすいかん

はしは後文字をうき叶ものそのれんとは巡節なり又のぬ

かことは記り解れ物ハ二三有れをとり音をうをさを入れし秘蔵

のことはたゝへ其ハ僧正樂たとちかし朗詠そのぬし物しと

中合をしかき資賢仲頼なとは律入道の作巡の朗詠なとは

そのぬしわきまへかたきなれはそのぬしの家にはなれはその音要用

にしたりしはたゝへ其北星れ勾なと又さしり足柄山曲の勾も節と

其百河ひぬ河なかしこしにもしし給ふな秘蔵なりとかさ

まにさ資賢以ふ鷹を法ふふ其法國ふりそてまつりしを其

足結のいとは鉋をうきうのまにして勾なひて元父有資は

保延五年青勾農七年藏崇德院御宇にてかいして記しにはこれを

をそんしと秘蔵してかいぬそのぬしの治の音に河ら鷹なれしたるさ

て盤涉といぬそのぬしの治も又調子盤涉なれはらひて音の車の音

にのかせて庭下元なとして河りぬ男足のぬしきあへ紫の枝を

つけてまへぬそのまうくのこりていまに我家には技結と紫

と用さまも言律の気ハり律入道先代作巡せられし朗詠

をおるしまりも五首の気ハりも家家は秘蔵しなりぬ五常

と用ゐまゐて言律の気くわ 五入道 先代作近せられし 朗詠
をおくるし まゐて五首の気くわも 家家の秘蔵とゐわぬ 五常
楽急 拍子只拍子吹るのおれとも 名楽 拍子に 物をこれんとすれ
されとも代しけれたならんとまつこと けいかしくして遊楽の沙
法もなし そこ平国の察をなしてなんと かくわ あひ 恐ろ也
治承二年四月下旬の比あり今様の今をそ 河つまりて 龍山院中御 兼
雅の御會りて資賢卿云 故ぬ人の節いやしきゆへ 今をそ
き人の節うつしくといへとも もすくといへ 数と唱ると いふ時は
河くれともなとかこと 秘古のうちぬ人 今の声のふとくに
よく決ほそきも ぜさしは 数をかへすと 目む度唱なり 甲甲
ゐは神仙調をいへとも河わさとめて 又河そきも 一度に 目む度
吹くへ 大曲 神楽 統々河わといへとも 傳来る事 陽立 神秘 秘立
陽月門弟 神明の者より 二神おくなり 寛平 主上定給せ 与立
上 和国遊楽唱勿々云
それ神明の者より 天津日つきを 法人給されたるや 寶風も
ていりまゐ 素戸にうはる 為 無しといまの此代にむさ 物をしは
唱ふとなり 此くらに 秘 陳勾河の節 華 大曲の要屋 なり 足
栖 黒 名 荒河 いわこ こゑ をなし 物の唱へとも 家流の世の秘
蔵と物わと資賢卿申されしかれ 兼雅も 少なく 穴うし 古人
ふかくしといひてその日もまりて 志られ 物
治承二年九月上旬のあつき 東ひ 法性寺人 経法春にまいりたへり
物わ 物し 資賢卿も 小鷹法ふて かへるさにまいりぬうちより
て唱ふの、沙法して今の世は法ぬ めかたれことかなと申 河ひ 和
琴のかきやうを 吹しまゐ 落と云宮御 譜を書
給ハ三ッより 三ハ 秘 九 事なれハ落とちれと 河そりし 物をそ 急
を河くるハ和琴の弾屋 此第一なり 左右ハ和琴にあり
六条ハ 撩 物へ 見むとりてなくては 無人名の 志らぬ 物んいひしそ
かし

琵琶レ反撥ソ 撥 九 をうす リノフル下十ヒこれハ 志らり
てタニタ之火もやし 上ら里をとつす 物わと志らへし

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』　請求記号　本別10-12

国立国会図書館　タイトル『梁塵秘抄口伝集』 請求記号 本別10-12